

## E020 鮎止めの滝(静岡県GEO DATA(14) : 地学散歩 (93) )

著者	増島 淳
雑誌名	静岡地学
巻	113
ページ	iii-iii
発行年	2016-06-19
出版者	静岡見地学会
URL	<a href="http://doi.org/10.14945/00024558">http://doi.org/10.14945/00024558</a>

## E020 鮎止めの滝



国土地理院 1 : 25,000 三島

三島駅から舗装道路を歩いて約 20 分、日本大学三島校舎裏手の上岩崎公園内にある滝。最近「伊豆半島ジオパーク」のジオポイントに指定されて注目を浴びるようになった。約 1 万年前、新富士火山の活動初期に古黄瀬川谷を流下した三島溶岩流の上には、西側の愛鷹火山東麓に沿うようにして黄瀬川が流れ、その末端部には鮎壺の滝が懸かっている。これと対をなすようにして、東側の箱根火山西麓側には大場川が流れ、溶岩流末端部に本滝が懸かっている。本滝は溶岩単層の段差に従い 2 段に分かれ、本体の落差は約 4m で平時は迫力に欠けるが、増水時には滝音のすごさと舞い上がる水しぶきの迫力は感動的である。滝のすぐ

目の前に展望所があり、滝が懸かる溶岩層の重なり具合をはっきりと観察できる。その下部にはローム層を挟み、亜角礫からなる泥流堆積物層が存在する。対岸には、2 千数百年前に流下した御殿場泥流層が厚く堆積しており、冬場の草木が枯れた時期には露頭が観察できる。三島市の地史が凝縮された超一級のジオポイントである。 (増島 淳)